

第4節 まとめ

本章では以下のことを明らかにした。

1) 逸脱行動と授業理解度の関係について

調査対象者は授業を「理解できる」生徒が「理解できない」生徒より多く、その割合は3:2であり、その比率に性差はみられない。地域別では、「その他」の高校の方が「都心」よりも「理解している」割合は高い。逸脱度と理解度との関係では、非逸脱群では理解度が高いが、逸脱度が大きいと理解度は低い。

2) 逸脱行動と学業成績

非逸脱群は成績上位者に多く、逸脱群は下位者に多い。逸脱行動は学業成績との関連が強い。

3) 逸脱行動と進学アスピレーション

逸脱度が上がると、大学希望は減少し、高等学校と専門学校を希望する割合が増加する。規範意識が低い者ほど大学希望は少なく、高等学校と専門学校を希望する割合が増加する。しかし、規範意識の高低よりも逸脱行動の大小の方が、進学アスピレーションの加熱と冷却、上昇と下降との相関が強い。

4) 逸脱行動と学校生活の満足度

逸脱行動が小さいほど学校生活の満足度が高い。大きく逸脱した行動をとる者ほど学校生活の満足度は低く、不満度が高くなる。一方、逸脱行動をとらない者ほど満足度は高く、不満度が低くなる。

学校生活に4割は不満をもっており、その大きな不満要因は、勉強、授業、先生である。大学進学希望の高い高校の生徒に不満度が低く、低い高校に不満度が高い。逸脱度の高い者の7割は「勉強はつまらない」と思っている。今後は授業展開や教育方法の改善・工夫が教師に求められる。

5) 希望進学と大学進学率・学校立地

今回の調査対象者は大学以上を6割が希望している。大学進学率との関係では、最上位ランクの高校では9割が大学以上を希望しており、性別による違いはみられない。最下位ランクの高校では大学以上希望者は2割であり、男子の方が女子より大学以上を希望する割合が高い。学校立地との関係では、「都心」より「その他」の地域に大学以上希望者が多い。「都心」に最上位校が多いものの、全体的には「その他」地域の高校の方が大学進学率は高く、大学以上の希望率が高い。

6) 逸脱度と希望進学・学校立地

今回の調査対象の中では、逸脱行動は中・高校卒希望者が高く、大学以上希望者が低い傾向にある。学校立地と進学希望、逸脱度との関係では、「その他」の地域の大学以上希望者は逸脱度が最も低く、「都心」の中・高校卒希望者が逸脱度が高い。

7) 逸脱行動と進学希望・学校立地

具体的な行動では「お酒やビールを飲む」といった行動は、地域・希望進路に関わらず経験率は高い。一方、「校則をやぶって注意される」といった行為は、「その他」地域の高校卒希望者に最も多い。「都心」の高校卒希望者と短大・専門学校希望者の方が「その

他」地域の者より逸脱行動の経験率が高い傾向にある。「都心」の方が「その他」の地域よりも逸脱行動を経験しやすい環境にあるのかもしれない。

「都心」の高校生よりも、「その他」の地域の高校生の方が逸脱傾向が少なく、大学への進学希望も高い。これは、「都心」の方が高校生を誘惑する要因が多いことにも原因があるものと思われる。学校の授業の理解が困難であり、学校生活への不満が多くても、逸脱行為をおこしやすい環境が「都心」に多いことが、「都心」の高校生の逸脱行動が多くなるという結果をもたらしているように思われる。

